

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.05発行 Vol. 7

<神戸の今 : 神戸まつり>

観光都市神戸では一年を通して色々なイベントが開催されます。その中でも最大のイベントが5月に行われる「神戸まつり」です。5月19日には市内9区で各区の特色あるまつりが一斉に行われ、20日のメインフェスティバルではおまつりパレードが行われ、華やかなサンバの演出や賑やかなマーチングバンドの演奏などが楽しめます。郷土芸能や太鼓などのステージ行事の

ほか、マーケットもあり、会場一帯が大いに賑わいます。

右の写真は長田区で行われた祭の様子で、「鉄人28号」の前で地もとのフラダンスの団体や中学校の吹奏楽で盛り上がりました。



この「神戸まつり」は1933年11月に「みなとの祭」として始まり、戦争の為一次中断後しましたが1964年から三ノ宮を南北に

貫くフラワーロードでの民謡パレードが始まり、1971年には市民参加型の新しいお祭りとして今の「神戸まつり」が始まりました。今年のメインフェスティバルは72の参加団体 約6400人がフラワーロードでパレードを行い、10か所のステージでもジャズの演奏や各国の踊りなどが披露され、約104万人の人が訪れました。



神戸華僑総会80名による「神戸-台湾 絆」のパレード 「臺灣かき氷」も大人気でした。



スペイン舞踊の舞台や

華やかなサンバのパレード ⇒



〈神戸新開地音楽祭〉 武藤 龍雄

5月12日、13日、神戸市兵庫区の繁華街、新開地で「神戸新開地音楽祭」がありました。阪神淡路大震災の鎮魂と街の復旧・復興を願い始まった催しで、今回で第18回目となります。2日間にわたり、新開地商店街から湊川公園にかけて合計10のステージでジャズ、ボサノバ、ソウル、ブルース、ポップス、フォーク、ゴスペル、ロック、とあらゆるジャンルの音楽が響き渡ります。観客との掛け合いもあちらこちらで見受けられました。13日のエンディングはあいにくの雨の中でしたが、その年、新開地で選ばれたジャズボーカルクイーンの舞台と日本屈指のサクソ奏者、土岐英史の率いる楽団の華麗な演奏で締めくくられました。



エンディングの様子

〈こどもの日〉 濱本 壯信

5月5日は「こどもの日」で「端午の節句」とも言われています。

季節の変わり目である「端午の節句」の日に病気や災害を防ぐために様々な行事が行われ厄除けの菖蒲(しょうぶ)を飾っていたといえます。13世紀ごろから武士の間では「菖蒲」が「尚武(武道を重んじること)」に通じることから端午の節句を積極的に祝い始めました。17世紀になると次第に男の子の誕生を祝う風習に変わっていき、兜や鯉のぼりを飾り、ちまきや柏餅を食べるようになりました。

中国の黄河の急流にある「竜門」と呼ばれる滝を唯一登り切り、竜になることができた鯉のように、立派に成長し、出世して欲しいという願いを込めたものが「鯉のぼり」といわれています。

以前は家々の庭などに屋根より高いポールを立て大きな2~3mの鯉のぼりを何匹も高々と掲げていましたが最近の住宅事情から室内で小さな鯉のぼりや兜などを飾るようになりました。そこで、家では飾ることが出来なくなった大きな鯉のぼりを市民から寄贈してもらい大阪府高槻市では5月に鯉のぼりフェスタ(まつり)を開催しています。毎年川の上を泳ぐ約1000匹の鯉のぼりを見るためにたくさんの方がここを訪れています。



菖蒲の花



ちまき



農家と鯉のぼり

